

編輯後記

○東亞の新秩序建設を目指して聖戰こゝに三ヶ年、國を擧げてのこの超非常時に際しまして、我が漢文學會が、その健實なる歩みを歩み續けてゐる證左の一つとして、會報第十號を發行し得ますことを、皆様と共に、心から喜びたいと存じます。

○御多忙中にも拘りませず、本號の爲にわざ／＼御執筆下さいました内野先生、佐田、富山、林、三先輩及び卒業學年石山君の御厚志を、明日の會報の發展の爲にも、編輯子として、深謝申しあげる次第でございます。

○本年度より「支那語學」を御講義戴くやうになりました王先生には東京の今昔を御想起下さいまして墨痕麗しき隨筆を本號に賜りまし

たことを厚く御禮申しあげます。特に本號に、隨筆の欄を設けました所以でございます。

○「文苑」には、先輩、陳蔡氏の玉稿が戴けましたことを、會員各位にも喜んで戴きたく存じます。他の諸兄にも、奮つて御投稿あらむことを、切望致して居ります。

○本號より太陽舎印刷株式會社の方へ印刷をお願いすることになりました故、左様御諒承願ひます。

○種々の理由によりまして、今日まで發行が遅れましたことを申譯なく存じてをります。何卒御寛恕下さい。

○此の年にして更に歐洲の動亂あり嘗て國民の自覺と協力が、これ程までに要求せられたことを知らない、この二十世紀の秋に、會員各位には益々御自愛御精勵下さいますやうお願い申し上げます。

漢文學會々報 第十號

昭和十四年十一月廿五日 印刷
昭和十四年十二月一日 發行

【非賣品】

東京文理科大學漢文學會
編輯者 大島 一

東京市小石川區林町四一
印刷所 太陽舎印刷株式會社

東京市小石川區林町四一
印刷人 小谷 實

東京市小石川區大塚窪町
發行所 東京文理科大學
漢文學會